

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第4回相模原市広域交流拠点整備計画検討委員会 相模原駅周辺地区小委員会		
事務局 (担当課)		都市建設局まちづくり計画部相模原駅周辺まちづくり課 電話 042-707-7026 (直通)		
開催日時		平成27年1月26日(月) 19時00分～21時00分		
開催場所		けやき会館 職員研修所 大研修室		
出席者	委員	11人(別紙のとおり)		
	事務局	6人(広域交流拠点推進担当部長、相模原駅周辺まちづくり課長、相模原駅周辺まちづくり課総括副主幹、リニアまちづくり課長、交通政策課長、交通政策課担当課長)		
公開の可否		可	不可	一部不可
		傍聴者数		4人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 部長あいさつ 2 議事 (1) 前回の振り返りと今回の位置づけについて (2) 計画の中間取りまとめ(案)について (3) その他 3 その他		

審 議 経 過

1 部長あいさつ

2 議事

主な内容は次のとおり。(は委員長、 は副委員長、 は委員、 は事務局の発言)

(1) 前回の振り返りと今回の位置づけ

事務局から説明した後、質疑応答を行った。

(特に意見なし)

(2) 広域交流拠点整備計画 (相模原駅周辺地区) 中間とりまとめ (案)

事務局から説明した後、質疑応答を行った。

広域交流拠点の機能として、国際コンベンションが必要。展示場、会議場、宿泊施設などの機能を配置すべき。アフターコンベンションなどを絡めた地域活性化も必要。広大な土地があるので、良い土地利用を検討して欲しい。

コンベンションの施設配置については、来年度以降に詳細を詰めていきたい。

国際コンベンションと言っても MICE^{*1} といって機能により規模が異なる。MICE のどの機能を重視するのかについて議論が必要だろう。Exhibition は、東京ビッグサイト (10 万 m²) があるので対抗はするのは難しい。需要と供給を踏まえた検討が来年度必要である。

JR 横浜線の連続立体交差事業と小田急多摩線の延伸計画が直近の課題。JR 横浜線の高架 / 地下を判断することは難しいが、小田急多摩線の延伸とどのように調整を図るのか中間取りまとめに組み込むべきでないか。

また、共同使用区域を含めると県内・周辺都市からどのように人を集めるか、県との関係を整理すべきである。県との関係性も中間取りまとめに組み込むべき。具体的には相模川西側から来る道路は、混雑している。県外・周辺都市だけでなく県内からも人を呼ぶということを明確にしておくべきである。

県との関係というのは、道路ネットワークをしっかりと行うことか。市全体の話か北口地区の話かわかりづらい。

県の上位計画に、北の玄関口と記載されているものの、具体的にはリニア中央新幹線と相模線の複線化のみである。北の玄関口として、広域交流拠点として、県の上位計画にも位置づけをしていく必要がある。

インフラ整備と県の上位計画への位置づけということか。事務局から何か意見があれば。

連続立体交差事業は未決定であり、小田急多摩線の地下についても決定ではないので、表現方法を調整する。県との関係性については、橋本地区とセットで考えていく必要があるのでは、検討委員会で議論して頂きたいと思う。

相模原市は政令指定都市になったので、県や県内政令指定都市の横浜市・川崎市と4つ巴の計画を調整していく必要がある。市としてどうするのかを決めておくことが重要である。

ゾーニングの基本パターンは、極端に言うと特徴が無く中途半端になりかねない。横浜市・川崎市・首都圏と差別化を図る特徴づけが必要。行政利用の跡地利用もセットで議論が必要。北口地区で全てというわけではないため、南口とあわせてゾーニングの議論が必要。

南北の連携やペDESTリアンデッキについては、人の流れだけでなく、イベント広場のスペースをとってコンサートや大道芸ができるように。駐車場は、リニアができることで相模原と名古屋を日帰り出張する人もいるだろう。リニア新駅と相模原駅の接続の地下駐車場などを整備方針で少し考えた方がよいのではないか。

整備計画の対象年次では、JR 横浜線の連続立体交差事業が含まれていないが、全く議論しないと言うわけには行かない。中間取りまとめに何かしらを組み込まないかは議論が必要。ゾーニングは、市としての立場と広域交流拠点としての立場でコンセプトを検討することで具体的な面積比率も見えてくるのではないか。北口に入れる商業を検討する上でも、南口との関係を踏まえて市として求めるもの、広域的に求めるものということを考えておく必要がある。

中間取りまとめは、考えられることを全て出したと言う認識で、具体的な検討は来年度となる。南口と北口では時間差があり当面課題になるのは北口となる。また、周辺都市の町田市、立川市、八王子市といった競合関係を整理しながら、実際可能かを来年度に検討しておく必要がある。

リニア中央新幹線は、設計が完了しているから変更は難しいと橋本で議論があった。そのことを踏まえると、小田急多摩線の延伸とJR 横浜線の連続立体交差事業の関係性もある程度想定しておく必要があるのではないか。

高さ/深さの関係は事業費の議論に直結するが、そのことが議論できる段階にあるか。小田急多摩線も決まっていない現時点で何を調整するのか。

これから設計に入るからこそ、どうするのかということについて触れておく必要があると考えている。

リニア中央新幹線とは状況が異なる。リニアは構造的な課題があるが、一般的な地下鉄であれば、副都心線のように既存構造を避けながら整備を検討することもできる。

あまり気にしなくてもよいということか。小田急多摩線は、相模原市域は地下で決まっているのではないか。

小田急多摩線の計画は、市が一方的に言っているだけで、小田急はまだ計画には触れていない。

地域交流機能とは何か。広場／オープンスペースを示しているのか。言葉が概念を表していないのではないか。学習センターとか交流センターなどを北口地区のどこかに位置づける予定なのか。

広場に関する積極性が見えない。他の施設の関係に配慮して作るのではなく、積極的に配置していくことが必要ではないか。また、駅前広場が交通機能で占められているのは昔の計画であり、これからは交通系だけでなく、まちづくりの観点からの整理が必要である。

地域交流機能については表現を調整させていただく。JR 横浜線や小田急多摩線についても同様である。

相模原駅周辺の移動手段は徒歩を想定しているか。ロボット特区とかを活用した新しいモビリティの話を組み込んでも良いと思う。

来年度に詳細を検討していく。

乗降時にスピードダウンする動く歩道などは考えられる。最先端技術を用いた歩行者ネットワークについても触れておいても良いと思う。

駅前空間については、小田急多摩線の新駅と JR 横浜線の乗換動線の強化を記載してもらいたい。駐輪場の必要性については、利便性とあわせて記載してもらいたい。

駐輪場は、突然細かい数字が出てきており、違和感がある。他の検討熟度と比べて浮いてしまっている。

乗換利便性については、整理させていただく。

本日頂いた意見を踏まえて事務局で最終的に修正し、時間との関係もあるので、委員長預かりとさせてもらう。

相模原と橋本で同じものを作っても仕方がなく、それぞれで人が呼べて活気が出るまちづくりをして欲しい。バスが重要な公共交通となるため、橋本・北口地区・市役所跡地を循環させる新しいバス路線も考えられる。相模大野・北里・麻溝は BRT の計画もある。

橋本と相模原の中間とりまとめを束ねる場はあるのか。

第 2 回検討委員会でとりまとめを行う。

以 上

相模原市広域交流拠点整備計画検討委員会
相模原駅周辺地区小委員会名簿

No.	区 分	氏名 役職等	備考	出欠
1	学識経験者	市川 宏雄 明治大学専門職大学院長	委員長	出席
2		中林 一樹 明治大学大学院政治経済学研究科特任教授	副委員長	出席
3		屋井 鉄雄 東京工業大学大学院総合理工学研究科教授	副委員長	欠席
4	市住民	鈴木 典子 公募市民		欠席
5		横山 房男 相模原駅周辺まちづくり推進連絡協議会構成員		出席
6		山田 昇一 相模原駅周辺まちづくり推進連絡協議会構成員		出席
7	関係団体	中里 和男 相模原駅周辺まちづくり推進連絡協議会会長		出席
8		阿部 健 相模原市観光協会専務理事		出席
9		座間 進 相模原商工会議所専務理事		欠席
10		田所 昌訓 相模原市自治会連合会会長		出席
11	公共交通事業者	山口 拓 東日本旅客鉄道株式会社横浜支社企画部長		出席
12		黒田 聡 小田急電鉄株式会社交通企画部長	代理	出席
13		三木 健明 神奈川中央交通株式会社運輸計画部長		出席
14	関係行政機関	重江 晶子 神奈川県相模原警察署交通第一課長	代理	出席